

KOSHIGAYA Urban agriculture

2021-2030

持続的に農業が行われる環境づくり

FARMER
O1



FARMER
O2



KUWAI



YOUNG
FARMER
O3



KOMATSUNA



YOUNG
FARMER
O4



YOUNG
FARMER
O5



NEGI



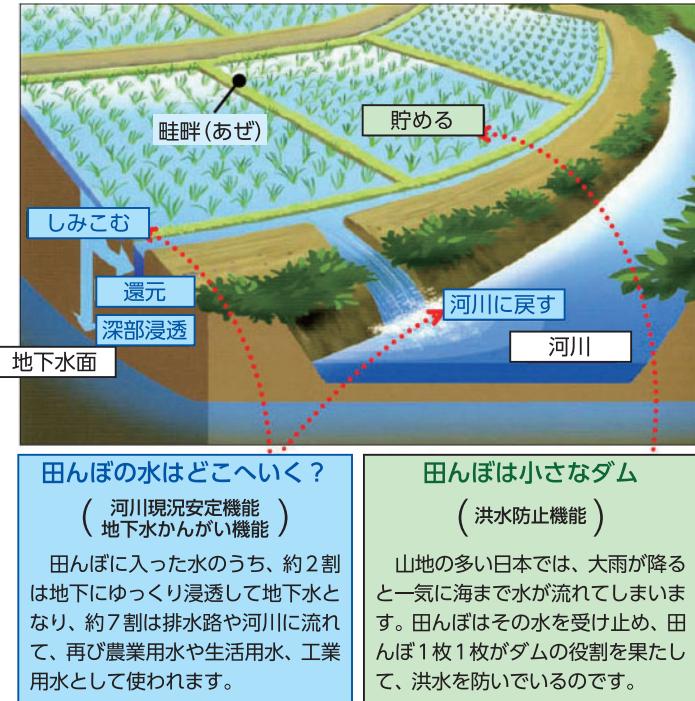
越谷農業とは？

農業・農地の役割—社会的効果—

①水害から田んぼが「まち」を守る

田んぼには、雨水を一時的に貯留する働きがあり、水害からまちを守る一面もあります。

仮に、越谷市内の田んぼの保水・遊水機能を貨幣価値に換算すると、年間で約6億2,810万円もの価値があると試算できます。



資料：関東農政局

②水や大気をきれいにして、暑さを和らげる

田んぼや畑では、作物や水中・土中の微生物により水質や空気を浄化する働きがあります。また、田んぼや畑から水が地下にしみこむことで、水をきれいにし、地下水を貯めることができます。さらに、水が張ってある田んぼは、気温の上昇を抑える効果があることがわかっています。

③農地を守ることは、多様な生物を守ること

農地では豊かな生態系が保たれており、用水、土中に生息する植物や昆虫、そしてそれを捕食する動物など、多くの生物を育んでいます。そして、私たちもその生態系の中で、直接的または間接的に他の生物の恩恵を受けていることから、生物多様性を守ることは、私たちの生活を守ることにもつながります。



④農作業を通してつくられる人とのつながり

近年は、農業体験農園等における農を通じたコミュニティ形成の可能性が注目されています。また、地域コミュニティが災害時の助け合いにおいても、重要な役割を担うことが再認識されています。農業・農地は、農産物の生産や環境の維持保全だけでなく、そこにかかわる人々のコミュニティの活性化も担っています。



地理的優位性

越谷市は東京都心から25km圏内に位置し、人口34万人を擁する埼玉県東南部の中核都市です。

交通網が発達した都市近郊地域ながらも、市の東西には水田を中心に優良な農地が広がっています。

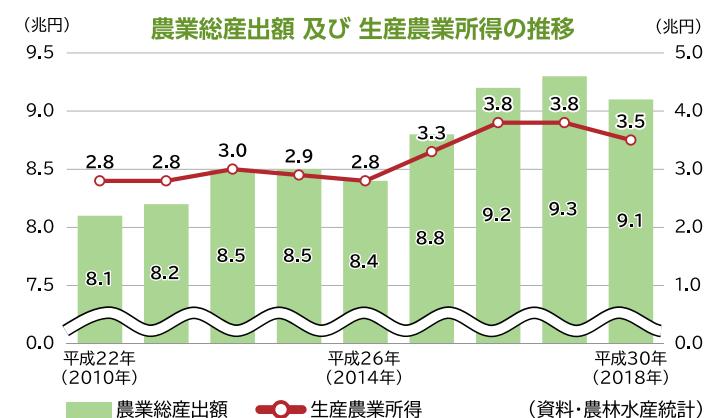


農業・農地の役割—経済的効果—

①農業こそ、これからの「成長産業」

近年、国内の農業総産出額、生産農業所得が増加傾向にあります。また、IT技術などを取り入れた農業用機械の開発や企業の農業参入の増加、農産物輸出額の増加などにより、各方面から農業が注目されています。

越谷市でも、いちご観光農園が広がりをみせ「越谷いちご」としての認知度を高めているほか、「越谷ねぎ」のブランド化の動きも進んでおり、高付加価値農業の取り組みが進展しています。さらに、企業との連携強化や各品目に適した新技術の導入が進められていることからも、今後、より効率的で収益性の高い農業経営の実現が期待されます。



②他産業への経済波及・産業連携の可能性

首都近郊に位置し、周囲に大勢の消費者を抱える越谷市は、新鮮な農産物を新鮮なまま流通できることや、手軽に観光農園に来もらえるなど、他の地域よりも有利な立地にあります。そして、この越谷市の地理的優位性を背景とした農業経営は、本市産業を支える一つの柱となっています。

さらに、農業との連携による他産業の活性化も期待できます。実際に、市内の農業関連産業従事者は約5万人と推計されており、今後、雇用就農の可能性、関連産業を含む雇用の受け皿としても農業の重要性が高まっています。また、農産物のブランド化や販路の拡大により本市の認知度向上に貢献しています。



越谷農業の現状と今後の施策

現状

1 農業経営について

課題

- 農産物の価格が安い（農業所得が上がらない）

強み

- 大規模に経営する農業者の増加（10.0ha以上）



- 市内観光農園の集客数の増加

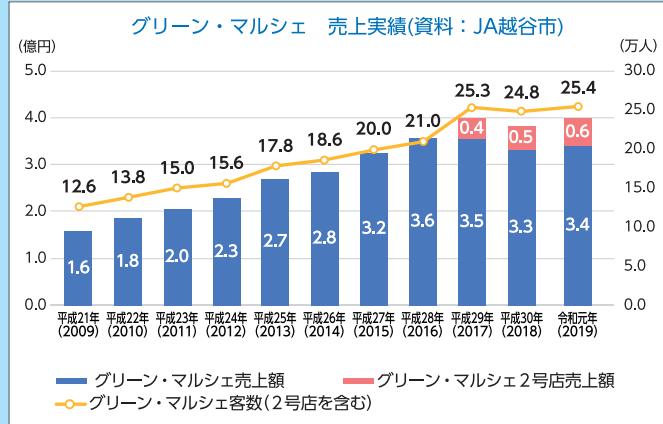


- 越谷農産物の販路を形成する取り組みが評価され、需要がさらに拡大する可能性がある

「越谷ねぎ」「いちご」を知っているという回答が約7割
「太郎兵衛もち」は、認知度は低いが「購入したい・食べてみたい」という回答が最多

「越谷を代表する農産物について」(令和元年度消費者アンケート)

- 農産物直売施設や学校給食の地産地消が進む



- 農産物直売施設の充実

生産・出荷の拡大に取り組みたい農業者が多く(102件)、
そのうち直売所での出荷を希望する回答が最多(54件)

「販路づくりについて今後新たに取り組みたいこと」「拡大したい出荷先」
(令和元年度農業者アンケート)

現状

4 農業に対する市民理解について

課題

- 越谷を代表する農産物の市外へのPRの拡充が求められる

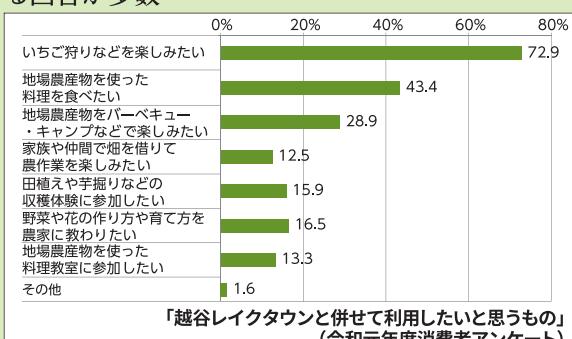
越谷ねぎ、くわい、いちご、トマトの今後の「購入したい・食べてみたい」という意向は、
市外在住の方が高い(消費者アンケートより)

- 市民・消費者による農業・農地への理解をさらに深める必要がある
- 農業者が営農環境の悪化を感じ、周辺住民の農業への理解が必要と感じている
- 市民・消費者との交流を望む農業者が一定数いる
- 農業体験の推進と市民農園のあり方の再検討が求められる

強み

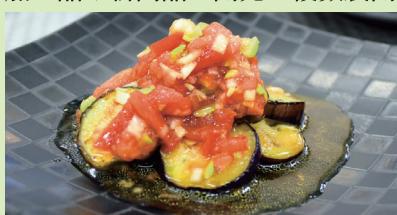
- 観光農業の展開が期待される

越谷レイクタウン周辺でいちご狩りなどを希望する回答が多数



- 越谷農産物の活用が進んでいる

加工品や新商品の開発が複数展開



レシピコンテストの開催
越谷農産物に対する興味関心の向上を目的として、平成30年度(2018年度)から開催

←レシピコンテスト入賞作品
焼きナスの冷製トマトソースがけ

- 市民理解を図る取り組みの充実が求められる

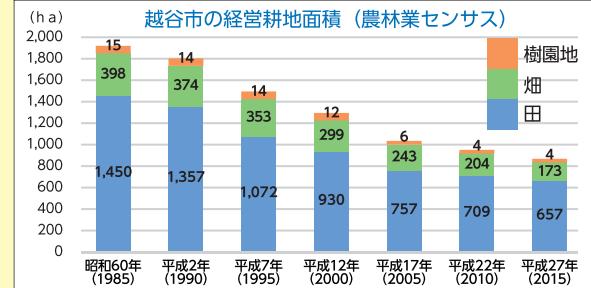
地域協働による農地や水路等の管理活動の支援
田んぼアートの田植え・収穫祭に、毎年約200名の市民等が参加

現状

2 農地利用について

課題

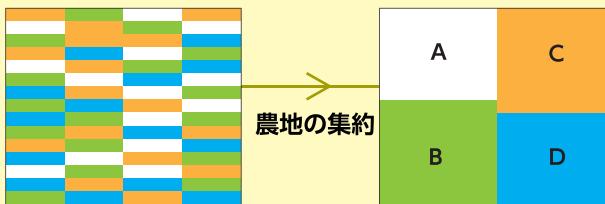
- 農地の減少が続いている
- 土地持ち非農家が増加している
- 農業用排水路や農道の効果的な整備が必要である



強み

農地利用集積が実施されている

- 計4地区(63.6ha)で農地利用集積事業を実施
- 分散した農地を大きな農地へと集約することで、
農環境を改善



環境保全に着目した農産物の生産に取り組んでいる

平成27年(2015年)から「越谷ふるさと米」の栽培を開始

実施地区	面積	実施地区	面積
集団的いちご観光農園	4.9ha	船渡地区(第1期)	19.9ha
大吉・向畠地区	8.8ha	船渡地区(第2期)	6.4ha
西新井・北後谷地区	23.6ha		

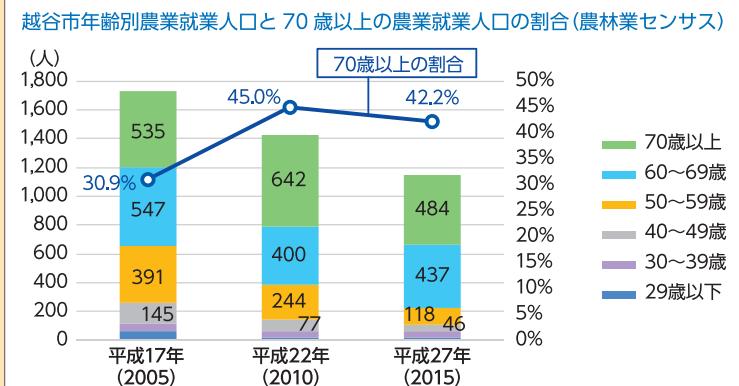


現状

3 農業従事者について

課題

- 農業者が減少している
- 農業者の高齢化が進み、
後継者の確保が喫緊の課題となっている
- 販売農家の若年層の減少が著しく、
農家内での技術継承が難しくなっている



強み

研修事業を実施している

研修事業	いちご観光農園経営者	7名
修了者	ねぎ栽培新規就農者	3名
	くわい栽培後継者	1名



- 経営耕地面積が広い農業者ほど、
規模拡大・集積への意向が強い
- 特定の経営体へ農地の貸付が集中している
- 専業農家への農地の集約・継承が期待される
専業農家に農地の集約を図るべきとの意見が最多
(農業者アンケートより)
- 埼玉県農業大学校との包括的な協定を締結している
平成30年度(2018年度)に研修生の受け入れについての
協定を締結

基本計画

首都近郊に位置し、周囲に大勢の消費者を抱えている越谷市の地理的優位性を活かし、持続的な農業生産体制の強化を支援するとともに、儲かる農業を実現するため、新たな販路の開拓や加工品の開発、観光農園の展開などの支援を行います。

市内観光農園の
来園者数を

令和元年度 ▶▶▶▶ 令和12年度
93,185人/年 128,000人/年

に増やします！



具体的な取組

1-4 地産地消の推進

- ・直売所機能の拡充
- ・学校給食等での地場農産物の活用促進

具体的な取組

1-1 持続的な農業生産力の強化

- ・代表的越谷農産物の生産支援
- ・集団的いちご観光農園整備の推進
- ・スマート農業の推進
- ・高収益作物・施設園芸への転換支援

1-2 「儲かる」農業のための経営支援

- ・観光農園・体験農園の取り組み支援
- ・6次産業化等の支援
- ・新たな販路開拓

1-3 都市農業の推進拠点整備

- ・農業技術センターの機能強化
- ・(仮称)越谷市道の駅と連携した地場農産物の流通・発信強化
- ・(仮称)越谷市道の駅周辺農地の活用

方針

①

越谷農業の強みを活かした
農業経営を追求する

具体的な取組

2-4 農あるまちづくりの推進

- ・農業・農地と共生するまちづくり

具体的な取組

2-1 農地利用集積の推進

- ・農地中間管理事業の推進
- ・多面的機能の維持・発揮に寄与する水田保全奨励制度の創設

2-2 農地の維持・保全

- ・人・農地プラン(実質化)による話し合いの推進
- ・耕作放棄地の発生防止
- ・農用地区域見直しの調査・検討

2-3 農業生産基盤の整備

- ・農業者等との意見交換
- ・計画的・効果的な農業生産基盤の整備と維持・管理・保全の実施
- ・農業水利施設の老朽化に対する保全対策
- ・農業用水を活用した水辺空間の創出

方針

②

立地特性に応じて
農地を保全・活用する

基本計画

保全・活用してきた農地を可能なかぎり残していく方針のもと、各地域の特性に応じた保全策を検討・推進します。

優良な農地については、農地の集積・集約化を進めるなど、農地活用や担い手の確保について、地域での話し合いを推進します。

農地利用
集積地域数を

令和2年度 4地域 ▶▶▶▶ 令和12年度 6地域

に増やします！



基本計画

消費者や市民が農業を支える仕組みを作るため、越谷の農業・農産物の価値を広く伝えるためのプロモーションを強化するとともに、イベントの実施や農業体験を通じて、市民理解の促進に努めます。

市政世論調査における
地場農産物の
認知度を

平成30年度 ▶▶▶▶ 令和12年度
22.2 ~ 68.9% 各項目を平均して
(平均 45.7%) (平均 50.7%)

向上します！



持続的に農業が行われる環境づくり

方針

④

消費者が
農業を支える仕組みをつくる

具体的な取組

4-1 越谷農業の発信力強化

- ・越谷農業のプロモーション
- ・知的財産権の活用推進
- ・越谷版グリーン・ツーリズムの推進(農業体験)
- ・事業者連携による地場農産物の活用促進

具体的な取組

4-2 市民理解の促進

- ・シビックプライドの醸成
- ・市民農園の運営方法やあり方等の調査・検討
- ・農業と教育との連携強化

方針

③

持続的に農業経営を担う
人材を育成する

具体的な取組

3-1 新規就農者の確保と育成

- ・新規就農者・農業後継者の確保と育成
- ・新規就農者等への包括的支援
- ・新規就農者等応援事業補助制度の拡充

3-2 越谷農業を牽引する人材への支援

- ・農業法人設立等支援
- ・特別認定農業者補助制度の推進
- ・多様な農業経営への支援

3-3 企業参入の推進

- ・企業の農業参入の推進

具体的な取組

3-4 多様な労働力の活用

- ・多様な労働力の活用

基本計画

研修事業を継続実施し、新規就農者・農業後継者を確保・育成することに加え、経営規模の拡大を進めている中核的な農業者により、越谷市の農業が牽引されるよう支援を行います。

また、企業の農業参入の推進や、多様な労働力の確保をすることで、持続的に農業経営を担う人材を確保・育成します。

新規就農者・農業後継者
研修制度修了者数を

令和2年度 11人 ▶▶▶▶ 令和12年度 20人

に増やします！



いちご観光農園

「越谷いちごタウン」をはじめとするいちご観光農園は、市内外から多くの集客を得ており、高収益が見込める新たな都市農業の展開として実績を残しています。



農産物直売所「グリーン・マルシェ」

農産物直売所「グリーン・マルシェ」の売上げはおおむね右肩上がりで、平成29年(2017年)5月には、新たに「グリーン・マルシェ2号店」がオープン。市内の経済循環に貢献しています。



越谷市を代表する農産物



くわい

くわいは、中国原産の水生野菜で、大きな芽が出ることから「おめでたい」食べ物とされ、正月料理などに用いられています。越谷のくわいは全国的にトップクラスの生産量を誇り、市内では主に荻島・出羽地区で生産されています。



小松菜

埼玉県の小松菜の産出額は全国2位を誇り、越谷市は県内有数の生産地となっています。

カルシウムの含有量は野菜の中でトップクラスで、アク抜きの必要がない便利な野菜です。



ねぎ

越谷のねぎは軟白部が長いうえに巻きが多く、身がしまっていて、加熱しても煮くずれしにくいのが特徴です。

高品質である越谷産のねぎの一部は、「千寿葱」として都内の高級料亭などで使用されています。



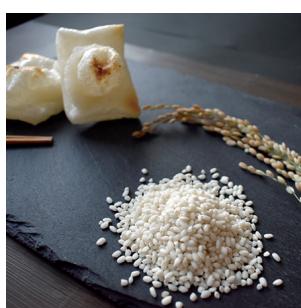
さんとうさい 山東菜

中国山東省が原産で、アブラナ科の白菜の一種です。白菜と違って完全に結球せず、内側の葉が黄色味を帯びていて、やわらかい食感が特徴です。越谷の冬の代表的な野菜の一つであり、漬物用の野菜として重宝されています。



いちご

越谷で栽培されている品種は紅ほっぺ、章姫、かおり野、よつばし、あまりん等があり、複数ある市内の観光農園では、色々な品種のいちごの食べ比べが楽しめます。



たろべえ 太郎兵衛もち

江戸時代から続く貴重な品種であり、天皇家への献上品として用いられたほか、徳川家康も食したと言われています。コシが強く、粘りがあり、独特的の風味があるのが特徴です。



チューリップ

越谷では昭和30年頃から盛んに生産されており、クリスマスや正月、卒業シーズンを中心に、都内の市場や関東各地区に出荷されています。出羽地区では毎年4月頃にチューリップフェスタが開催され、来場者の目を楽しませています。

発行 越谷市

〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

Tel 048-964-2111 (代表)

編集 越谷市環境経済部農業振興課

Tel 048-963-9193 (直通)

令和3年3月発行